

元年度自己評価結果公表シート

作成 大阪商業大学附属幼稚園

1. 本園の教育目標

学校法人谷岡学園の建学の理念“世に役立つ人物の養成”を基礎として、“人間形成の土台づくり”を進めるため、園児たちの遊びや生活を通じた教育活動を行う。

- ① 豊かなこころを育てる・・・品格ある立派な人間に育てるために！
- ② 小学校につながる力を育てる・・・小学校でますます学力が向上するように！
- ③ やわらか頭を育てる・・・自分の頭で考える力を育てるために！
- ④ 楽しい生き方ができる・・・自己の力を効果的に発揮できるように！

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・建学の理念をもとにした教育を推進するため、以下の四点に重点を置き、教育内容の充実、改善に努める。
 - (1) 建学の理念、教育要領が生きた生活や遊びを展開する。
 - (2) 小学校につながる力、人間形成の土台づくりとしての幼児教育を実践する。
 - (3) 豊かな学びと体験を生む環境を整え、考える力やコミュニケーション力を養い、仲間関係を豊かにする保育を実践する。
 - (4) 保護者との連携を通して、園児と保護者の満足度を向上させる。
- ・教員の資質向上を目指し、外部研修への積極的参加及び園内研修の強化に努めるとともに、教員自らが、指導計画の充実及び領域研究に主体的に取り組みながら、自己啓発を進める。
- ・保護者との連携、協力を深めることにより教育効果を高め、園児が基本的な生活習慣（生活リズムの確立、TPOの感覚、内省する習慣、我慢する気持ち）を身につけることで、園児が育つ幼稚園を目指す。
- ・高校生や大人と園児の交流を深めることで園児の生活の幅を広げ、園児の一層の成長につなげるため、地域や系列校との連携に取り組む。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育課程の編成・実施に関し、教職員間の共通理解を図る。	幼稚園教育要領を建学の理念及び教育方針とすり合わせ、幼稚園教育要領の実施に関する具体的方法として「写真で見る教育課程編成」を実践した。 幼稚園教育要領と建学の理念等との接点を意識し、より良い教育課程の編成に向け、継続して取り組んでいく。
建学の理念、幼稚園教育要領、教育課程、園児の実態等を基に指導計画を作成する。	園児たちの実態を踏まえ、学びや育ちを保証できるように各学年の担当教員が意見交換を行いながら、建学の理念及び幼稚園教育要領を踏まえた指導計画の作成に努めた。 文字ではなく、視覚に訴えることは、各教員の資質向上につながるため、引き続き「写真で見る教育課程」を取り入れ、教育課程の再編成と指導計画の充実を図る。
教職員間の保育に対する共通理解を強化するため、園内研修を充	外部研修等へ積極的に参加し、研修で学んだ内容を園内研修で積極的に報告するなど、毎日の保育の参考となる情報共

<p>実させ、研究会等へも積極的に参加し、教員一人一人の資質の向上に努める。</p>	<p>有を推進した。 教職員間で園内研修や情報交換を積極的に実施し、特に、支援を要する園児についての情報は全教職員間で共有し、園児に対する共通理解を深め、見通しを持った保育を実践するよう心がけた。</p>
<p>園だよりや子育てサロン、公式WEBサイト（新着情報、ブログ）などを通して幼稚園の情報を発信していく。</p>	<p>保護者との懇談、参観会及び子育てサロンなどを開催し、園児の学びや育ちを定期的に保護者に伝えるとともに、保護者の思いや考えを受け止める機会としても活用した。 園児の園生活、園外保育の様子及び保護者会活動やイベントの報告など、個人情報の管理に配慮しながら、公式WEBサイトを利用して積極的に情報発信に努めた。 保護者会広報部の協力を得て、保護者会機関紙「Smile」を年2回発行し、保護者に配付した。 保護者への連絡を迅速に且つ効率的に行うため、「れんらくアプリ」を導入した。併せて、同システムを活用して通園バスにGPS機能を持たせ、バスの位置をリアルタイムで把握できるようにした。これにより、通園バスを利用している保護者のバス停での待ち時間の短縮を図ることができた。</p>
<p>安全に配慮した環境づくり（施設・設備の改善）を進める。</p>	<p>園内、園庭の環境整備のため、定期的に遊具の点検を実施し、必要に応じて補修した。 園舎内外の補修・改善も行った。 通園バスにドライブレコーダーを設置し、バス運行の安全性の向上を図った。</p>
<p>地域・系列校との連携を進める。</p>	<p>地域との連携では、幼稚園行事（夕涼み会、敬老会）などを通じて、幼稚園の取り組み内容、行事等への理解が得られるよう努めた。併せて、園児が地域の方々に対し、思いやりの気持ちを持つことができるよう意識づけた。 系列校との連携では、昨年度に引き続き、大阪商業大学の大学祭における園児の絵の展示、大阪商業大学高等学校の学生による園児の意見を取り入れた玩具（木製パズル）の制作及び大阪緑涼高等学校へ園児が出かけ、保育系進学コースの学生と交流した。</p>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<ul style="list-style-type: none"> • 日々の園生活や遊びを通じ、建学の理念を意識した質の高い教育を実践しながら、園児の学びや育ちに向かう心情・意欲・態度を育てた。 • 幼稚園教育要領及び幼稚園の教育方針を意識し、園児一人一人を見つめる教育を実践した。 • 生き物の飼育、野菜の栽培、クッキング、餅つき、生駒登山など、さまざまな体験を通して、心情・意欲・態度を育てる教育を実践した。 • 文庫を活用して、園児が多くの絵本に出会う機会を創出し、物語に入り込む集中力を養い、豊かなこころの育成に努めた。 • 異年齢間の交流を推進し、学年の枠を超えての交流を積極的に取り入れ、異年齢間で刺激合いながらの成長を促した。 • 園児を中心に置き、園児の主体性を育む教育を推進し、園児同士での試行錯誤、協力する機
--

会を多く設け、園児自らが行動して達成感を味わえる教育を実践した。

- ・家庭との連携、協力を密にし、園児の育ち及び保護者の思いを把握しながら、幼稚園と家庭がともに園児の成長を促した。
- ・研修会等へ積極的に参加し、内容を園内研修で報告することで、情報を共有できた。
- ・系列校との連携を積極的に推進し、園児の生活の幅を広げながら、園児の成長につなげた。
- ・情報発信に努め、保護者及び一般の方の幼稚園の教育内容に関する理解を深めた。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保護者との建設的なコミュニケーションのあり方の検討	保護者が期待する幼稚園像を保護者懇談会や保育参観及び担任等を通じて把握し、求められる幼稚園の姿を確認したうえで、建学の理念に基づく教育を展開する。 公式WEBサイトを用いてタイムリーに情報発信を行い、保護者との連携強化を図る。 定期的な保育参観により日常の保育の様子を保護者に公開する機会を継続して設けるとともに、父親など男性が参加できる行事の一層の定着を図る。
教育力向上へ向けた取り組み	園内研修の強化と研修会（学会、全日幼、大私幼、近研関係、大阪府私学・大学課人権、大私幼プロジェクト、ちゃいるどネット他）へ積極的に参加することで、教員一人一人の教育力向上につなげていく。 各教員が自己研鑽に取り組めるよう、働き方改革も踏まえながら、在園時間の使い方等の見直しを検討する。 各教員の自己点検の結果を全教員にフィードバックし、個人の問題点を幼稚園としての問題点として共有し、今後の教育に活かしていく。
安全管理マニュアルに基づく防災・防犯体制の確立	安全管理マニュアルは、状況に即して更新する。 学期毎に避難訓練を実施して、震災やゲリラ豪雨等の自然災害を含む大規模災害に備え、全教職員が園内の避難経路及び各自の役割分担を確認し、自覚を持って行動できるようにする。 引き続き、布施警察署と連携した防犯訓練の実施及び防犯意識の向上を図る。 法人本部危機管理担当及び大学警備員とも連携を図りながら、園児が安心して園生活を送れるよう、幼稚園周辺の定期的な巡回、危険個所の把握及び教職員間の情報共有に努める。
特別支援教育の充実	支援を要する園児へのアプローチについては、専門家の意見や助言等を取り入れて実践に結びつける必要があるため、引き続き、キンダーカウンセラーと教職員との意見交換や研修を充実させる。 引き続き、積極的に外部研修会に参加し、研修内容を園内研修で報告することで情報共有を図る。 保護者と連携して、園児一人一人に最適な支援ができるよう、個人カリキュラムを作成して対応するとともに、保護者に対して、園児への「気づき」を促す取り組みを継続して実施す

	<p>る。</p> <p>園児の発達や遊びの様子を把握し、キンダーカウンセラーと連携しながら、園児と保護者へ適切な対応ができる体制を整える。</p>
地域・系列校との連携	<p>創立後培ってきた地域とのつながりを大切にし、さらなる相互理解を深めるため、地域にも諸行事などを通じて積極的に働きかけ、幼稚園の活動、行事等への理解が得られるように努める。</p> <p>大阪商業大学の施設利用、学園祭での年長組の作品展示、大阪商業大学高等学校デザイン美術コースとの連携による木製パズル制作及び大阪緑涼高等学校保育系進学コースとの連携を継続して行う。</p>
子ども・子育て支援新制度への対応	<p>「認定こども園」への移行については、研修会への積極的な参加及び東大阪市並びに近隣幼稚園への聞き取り等を行い、情報収集を進める。</p> <p>特に、移行した場合の教育内容及び教育体制を慎重に確認したうえで、コスト、施設設備等の状況も調査し、移行の是非を検討する。</p>

6. 学校関係者よりの意見

<p>➤ 心情・意欲・態度を育てる教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 勉強時間はないが、保育の中で例えば、お花いくつ咲いている、あわせていくつなど、数字を取り入れ、年長になれば絵本に自分で名前を書くなど、幼稚園生活の中に勉強を取り入れている。 ✓ 学習に重きを置くのではなく、生活面を大切にした保育により子どもの心が豊かになっていく点は評価できる。 ✓ 子どもそれぞれの個性を大切にし、寄りそう保育と教育に安心感がある。自由や自分等で考え、動くことも、これからの成長過程で必要な力を育ててくれていることも大切な教育と感じている。 ✓ 毎朝嫌がることなく笑顔で登園し、今日も楽しかったとキラキラと達成感に満ち溢れた笑顔で帰ってくる点が一番評価でき、嬉しく、感謝している。 ✓ お店屋さんごっこやクリスマス会、クッキング等、決められたことをするだけでなく、子ども達に考えさせ、話し合いの場を設けている。 ✓ やりたいことの実現のために何をすべきか何度も話し合う中で、譲れない主張をすること、時に妥協する必要があることを学び、少しずつ協調性を身に付けていると感じた。 ✓ 困っているお友達がいれば声を掛け、助け合いながら試行錯誤し、目標達成に向けてみんなで協力する大切さも学んでいて、行事を終えるごとに成長した姿を見ることができた。 ✓ 近隣の幼稚園では、課外活動や園行事が年々減らされているという話を聞く中、これまでとほとんど変わらず課外活動を続けていて、いつもと違う場所にお友達と行く楽しさや親と離れて乗る電車の緊張感など、頭と体をフルに使う体験をたくさんさせている。 ✓ 安全に配慮しながら、子ども達に刺激的な経験をたくさんさせている。

▶ 充実した施設や環境

- ✓ 園庭が自然豊かで、泥遊びを積極的にさせたり、池で遊ぶことができたりするところが良い。
- ✓ 栽培している野菜や果物を、幼稚園で食べられるので、食育にとっても良い。
- ✓ 自然環境豊かな園庭の整備、通園バスGPSシステムの導入及び保護者との連絡アプリの導入など、ハード、ソフト面において充実を図っている。
- ✓ 連絡アプリの導入により、通園バスの待ち時間が減った。
- ✓ 子どもがのびのびと遊べる園庭、環境があり、少し危ないかなと思うところもあるが、適切な見守りと対応がある。

▶ 教職員が一丸となった教育

- ✓ 教職員全体で子ども一人一人に寄り添った、きめ細やかな保育を常に展開している。
- ✓ 教員一人一人が、心ある保育を実践していると感じる。
- ✓ 教職員全員が、元気で明るく、爽やかな笑顔で対応しており、クラスを超えて子どもの観察をしており、微細な変化にも対応している。
- ✓ 子ども一人一人の興味のある遊びをそれぞれ楽しめるように教員がサポートしており、それぞれの遊びを追求することが出来る。
- ✓ 教員一人一人が、子ども達はもちろん、保護者含めて、心から第一に考えていると感じる。
- ✓ 先生の中には今でもピアノを習っていたり、けん玉ができないから家で練習しましたなど努力していることを知り感動した。大人になっても向上心を持つことはなかなか出来ないことだと思い、とても尊敬する。
- ✓ アットホームで、子ども達の教員に対する態度がリラックスしていて、信頼しているのが伝わってくる。
- ✓ すごくのびのびと遊ばせてもらえ、いろいろなことに挑戦してみることができるようになり、また、どんな悩みも自分で教員に伝えるようになって、教員に助けをもらいながら、自分達でいろいろなことを解決する力が付いた。
- ✓ 年度末の新型コロナウイルス感染症対策に関する対応は、最良の判断と対応であった。

▶ 様々な体験を通して育つ教育

- ✓ 地域や家族との関係性を深める行事やイベントを企画、実地され、地域と密着した幼稚園運営を行っている。
- ✓ 親子ふれあい、敬老の集いなどの行事を企画しており、日常の幼稚園生活の様子を紹介できる機会を作っている。
- ✓ 在園児の保護者（特に祖父母・父親等の男性）が参加できるように行事を計画している。
- ✓ 学期ごとに避難訓練（火災対応・地震対応・防犯対応等）を実施しており、園児に対し「自分の命は自分で守る」と園児個々に考えるように指導している。
- ✓ 避難訓練時には、隣接する大阪商業大学高等学校との連携を密にとっており、事案発生時における協力依頼も行っている。
- ✓ 四季折々の行事に加え、お茶会の開催、お米や野菜の栽培体験など、他では体験出来にくいことを楽しく体験できる。
- ✓ 季節ごとに様々な体験が出来て、伝統を受け継ぎ、変わらない行事を経験できる幼稚

園である。

▶ 検討すべき意見

- ✓ 登降園時、玄関や自転車置き場が混雑するので、混雑緩和の手法を検討すべきである。
- ✓ 教員数が、不足しているように感じ、遠足など行事を安全に実施できるのか、不安である。

以上の関係者評価を真摯に受け止め、慣れ合いになることなく、より良い保育・教育を目指して各事業を推進する。

7. 財務状況

学校法人谷岡学園として、監事及び公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。